

(哺乳類)

兵庫県 の 生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着 ○△: 定着 の怖れ が高い もの : 警戒 種	国指定 状況 (特定 外来 生物)	本県での影響													分布 △:古い 記録、 不確 実な 情報、 可能 性高 いも の	影響を及ぼすフィールド							備考						
								生物多様性 への影響			産業影響				人への 影響		神戸・ 阪神	播磨東 部	播磨西 部	但馬		丹波	淡路	池沼・ 湖沼	河川・ 水路 (河川 敷含 む)	水田・ 畑地	湿地	干潟・ 塩性 湿地		海浜・ 沿岸	草地	森林	市街地		
								競争、 捕食、 駆逐 など	交雑に よる 遺伝 的攪 乱	在来 生物 への 病原 菌、 寄生 虫な どの 媒介	生態系 基盤 の改 変	農業 への 影響	林業 への 影響	漁業 への 影響	利水・ 治水 障害	景観 への 影響																		人への 健康 被害	人への 直接 被害
9	ネコ	ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	Z	△	被害	○	○	○	○																								神戸市、南但馬地域で生息情報がある。神戸市では実際に捕獲されている。
10	ネコ	ネコ	ノネコ	<i>Felis catus</i>	Z	○	被害	○		○																								捕食行為などによる生態系へのインパクトが大きい。	
11	ネズミ	リス	タイワンリス	<i>Callosciurus erythraeus taiwanensis</i>	Y	△	特定	○	○	○																							神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、和歌山県、長崎県などで定着していると言われている。在来のリス類との競合などが懸念される。		
12	ネズミ	リス	プレーリードッグ類	<i>Cynomys</i> sp.	Y				○	○																							過去に情報が寄せられた時期があったが生息確認には至っていない。		
13	ネコ	イタチ	フェレット	<i>Mustela furo</i>	Y		被害	○	○	○																							大量にペットとして利用されており、定着すれば捕食行為などにより在来生物相に影響を与える可能性がある。		

(鳥類)

兵庫県 の 生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響											分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド							備考		
								生物多様性への影響			産業影響				人の影響					河川・水路(河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地		森林	市街地
								競争による遺伝的攪乱	寄生生物などの媒介	在来生物への病原菌、生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神											
1	ハト	ハト	ドバト	<i>Columba livia</i>	Z	○		△	△	○																		山地を除く県内全域に生息し、特に人口集中地に多い。農業被害のほか建築被害(糞害)が大きい。	
2	スズメ	チメドリ	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>	Z	○	特定	△	△																○	飼い鳥として古くから輸入されている外来鳥類。県内では、1980年に裏六甲で繁殖が確認されるとともに、1995年以降は表六甲でも確認され、個体数が劇的に増えている。また、最近では六甲山系以外に、繁殖期である2004年7月に氷ノ山山頂近くで生息が確認された。影響の実態は不明であるが、標高の高い落葉広葉樹林のササ藪に営巣するため、類似環境に営巣するウグイスなど外来種への影響が危惧される。			
3	カモ	カモ	アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domestica</i>	Y	△			○	△																	公園の池などに幅広く生息している。主に飼育下で生息するが、中には野生化し、池や河川のそばなど淡水域で生息している。マガモから人為的に作り出された家禽でマガモとの交雑の可能性がある。		
4	カモ	カモ	アイガモ	<i>Anas platyrhynchos</i> × <i>A. p.</i> var. <i>domestica</i>	Y	△			○	△																	野生のマガモとそれを家禽化したアヒルとの交雑種である。アイガモ農法で使用されたり、愛玩用として飼育されるが、逸出したアイガモがマガモと交雑する可能性がある。		
5	スズメ	ムクドリ	ハッカチヨウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	Y	△		△	△																	○	飼い鳥として県内に持ち込まれたものが逃げ出し、野生化したと考えられている。県内では、1982年に姫路市で初めて確認され、次第に加古川、明石と東にその生息範囲を広げ、神戸市、西宮市、伊丹市でも出現情報がある。また、スポット的に豊岡市でも確認されている。生息実態や影響の詳細は不明であるが、今後の動向に注意する必要がある。		
6	スズメ	カラス	カササギ	<i>Pica pica</i>	Y	△		△	△																	○	日本では佐賀平野とその周辺でのみ生息する。県内では、明石で繁殖していた時期がある。生息実態や影響の詳細は不明であるが、今後の動向に注意する必要がある。		

(昆虫類)

兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	の国 状 指 定	本県での影響											分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの					影響を及ぼすフィールド	備考					
								生物多様性 への影響			産業影響				人 への 影響				池沼・湖沼	河川・水路 (河川敷含む)	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地			海浜・沿岸	草地	森林	市街地	
Z Y 警戒種	○ △ : 定着 の 怖 れ が 高 い も の	被害(特定外来生物) 被 害 (生態系被害防止外来種)	競合、捕食、駆逐など	交雑による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、 寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波						淡路	河川・水路(河川敷含む)					水田・畑地
7 R3追加	コウチュウ	カミキリムシ	ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i>	Z	△	特定																							2020年から神戸市の六甲アイランドにおいて街路樹のアキニレでまとまった数が確認されている。 国際自然保護連合が定める世界の侵略的外来種ワースト100の1種に選定されている。国内ではここ1~2年に宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、神奈川県、愛知県、富山県からも、街路樹でもあるアキニレやモクゲンジ等で幼虫による食害が報告されている。原産国等では、バラ科の果樹などを食樹として知られている。 被害木は、羽化した成虫の飛散防止のため、ネット防除が望ましい。 被害木を伐採する場合は、成虫が羽化する春~夏を避けて行い、早急に燻蒸又は焼却処分する必要がある。切り株は可能な限り伐根する。困難な場合は、ビニールシート等で覆い、逸出防止措置を図ると良い。
8 R4追加	コウチュウ	カミキリムシ	クビアカツヤカミキリ	<i>Aromia bungii</i>	Z	△	特定																							県内では、2022年に明石市で成虫が確認されている。 被害木は、幼虫対策のための樹幹注入剤の使用、また、羽化した成虫の飛散防止のためのネット防除が望ましい。 被害木を伐採する場合は、成虫が羽化する春~夏を避けて行い、早急に燻蒸又は焼却処分する必要がある。切り株は可能な限り伐根する。困難な場合は、ビニールシート等で覆い、逸出防止措置を図ると良い。
9	ハチ	アリ	ヒアリ	<i>Solenopsis invicta</i>	Y	△	特定	○		○	○															○				日本での定着の記録はないが、亜熱帯から温帯性のアリで、侵入・定着の可能性が高い。物資の移動とともに侵入し、在来アリとの競合、小型節足動物の捕食など生態系に大きな影響を与える可能性がある。また、人間や家畜への刺咬被害が激しく、要注意である。

兵庫県内の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(維管束植物)ー緑化利用により影響の拡大が懸念されるもの

No	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定	本県での影響										分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの					影響を及ぼすフィールド	備考											
							生物多様性への影響	産業影響					人への影響					河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地			海浜・沿岸	草地	森林	市街地							
				Z・Y・・・・ 注意種	○△: 定着の怖れが高いもの	被害(生態系被害防止外来種)	特定(特定外来生物)	競争、捕食、駆逐など	交雑による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林	市街地	
26	カバノキ	ヒメヤシャブシ (県外産・国外産)	<i>Alnus pendula</i>	Z					○								○																	法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競争や遺伝的攪乱が危惧される。
27	カバノキ	オオバヤシャブシ (県外産・国外産)	<i>Alnus sieboldiana</i>	Z	○				○								○	○	○	○	○	○												法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競争や遺伝的攪乱が危惧される。
28	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Sapium sebiferum</i> Roxb.	Z	○	被害	○											○	○	○	○			○									○	植栽木より逸出し、河川敷や林内に定着しており、優占群落を形成する可能性が高い。
29	フジウツギ	フサフジウツギ(ニシキフジウツギ)	<i>Buddleja davidii</i> Franch.	Z	○	被害	○											○	○					○										山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布拡大している。
30	キク	ヨモギ (県外産・国外産)	<i>Artemisia princeps</i>	Z					○																									法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競争や遺伝的攪乱が危惧される。
31	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i> L. var. <i>laciniata</i>	Z			特定	○																		○								寒さや湿地に強く、盛んに繁殖する性質を持つ種である。貴重な湿原植物で在来の重要種の減少を引き起こしている事例が知られている。また、いったん侵入すると毎年刈り取っても、根絶は不可能とされているため、要注意である。
32	イネ	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i> L.	Z	○	被害	○										○	○	○	○	○	○		○									耐陰性などの様々な環境耐性を持つため、牧草や緑化植物として全国で広く用いられているが、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、問題になっている。道路法面・河川堤防法面などで優占群落化している。	
33	イネ	チガヤ (県外産・国外産)	<i>Imperata cylindrica</i>	Z					○															○										法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競争や遺伝的攪乱が危惧される。

兵庫県 の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(維管束植物)ー影響は甚大であるが、駆除が困難なことから、やむを得ず対策の優先順位を低く設定したもの(県内の現状及び全国的傾向から判断しYランクとしたもの)

No	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響										分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド							備考	国の指定状況 [特定(特定外来生物) 要注意(要注意外来生物)]	
							生物多様性への影響		産業影響				人への影響					河川・水路(河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地			森林
Z	Y	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	○	
46	セリ	ウチワゼニグサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> Thunb. var. <i>triradiata</i> (A.Rich.) Fernald	Y	○	○																				特定外来生物に指定されているブラジルチドメグサと同属の種で、水草として人気が高く、逸出の危険性が高い。野生化した場所では旺盛に繁茂し、在来の水生植物に深刻な影響を与えるおそれがある。	
47	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i> Hill var. <i>laciniata</i>	Y	○	被害	○																			砂浜や河川敷に侵入するため、そうした環境に特異的な在来植物への競合・駆逐のおそれがある。	要注意
48	クマツヅラ	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i> Vell.	Y	○	被害	○																			河川敷で優占する。	
49	キク	キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i> L.	Y	○	○																				既に広く野生化しており、河川では、河川敷固有の在来種等と競合・駆逐のおそれがある。河川敷や放棄畑などで優占群落を形成している。	要注意
50	アヤメ	キショウブ	<i>Iris pseudoacorus</i> L.	Y	○	被害	○																			繁殖力が強く、海外では水路等の雑草になっており、日本でも水辺の在来種と競合・駆逐のおそれがある。近縁種に絶滅危惧種が含まれ、それらの遺伝的攪乱のおそれがある。また、美しい花が親しまれ、観賞用に栽培されることが多いため、分布を拡大するおそれが大きい。	要注意
51	イネ	スズメノナギナタ	<i>Parapholis incurva</i> (L.) C.E.Hubb.	Y	○	○		○																		淡路島の成ヶ島に定着している。競合する植物がない空いたニッチで優占群落を形成しており、在来の海浜植物の生育立地を奪う可能性がある。	

